

福井大学の 特色ある取組

2017年10月



第3期、福井大学は新たなステージへ

国立大学法人では平成28年度から第3期中期目標期間がスタートし、福井大学ではさらなる機能強化に向け、次のような重点的取組を推進しています。

教育・グローバル化

P2~P6



- ◆ 世界で活躍できる高度専門職業人の育成
- ◆ 地域一体型教育の推進
- ◆ 教育の国際通用性の向上
- ◆ 地域のグローバル化を牽引
- ◆ グローバル化社会において地域創生を担う人材の育成

研究

P7~P9



- ◆ 子どものこころの発達研究
- ◆ 先端的画像医学研究
- ◆ 遠赤外領域開発・応用研究
- ◆ 原子力安全・危機管理研究

医療

P10~P11



- ◆ 県内唯一の特定機能病院として高度急性期医療機能の強化
- ◆ 高品質で高い安全性を有する医療の提供
- ◆ 地域医療や先端的医療を担う医療人の養成

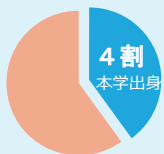
社会貢献・国際貢献

P12~P13

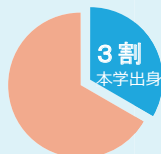


- ◆ 産業発展のためのイノベーション創出
- ◆ 地域の知の拠点としての教育研究
- ◆ 教員養成・保健環境での国際貢献

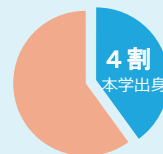
多くの卒業生が福井を支えています



県内教員数の割合



県内医師数の割合



県内エンジニア・科学研究者の割合



教育地域科学部 (現教育学部)

— 地域の次世代を育てる
教員の養成 —

○福井県の教員数
(小中高・特別支援学校)
7,499人
うち本学の卒業生数
3,066人

医学部

— 地域医療を担う医療人の養成 —

○福井県の医師数 1,982人
うち本学の卒業生数 524人
○福井県の看護師・保健師・
助産師数 8,679人
うち本学の卒業生数 277人
(県内で唯一助産師を養成)

工学部

— 地域産業を創造する
技術者の養成 —

○福井県のエンジニア・
科学研究者 13,700人
うち本学の卒業生数
5,258人

※福井県のデータは、教：平成28年度学校基本調査、医：平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：平成26年衛生行政報告例、工：平成27年国勢調査より。
福井大学卒業生のデータは、平成27年度時点の同窓会データより。

実践を重視した教員の養成 (教育学部・教育学研究科)

地域と協同する実践的教員養成プロジェクト

～学部教育～

■ ライフパートナー事業

学生が、不登校児童生徒の学校や家庭を訪問し、「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。一緒に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。



ライフパートナー事業報告会

■ 探求ネットワーク事業

子どもたちと共に人形劇、気球・料理作り、まちかど調査隊などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

■ 教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学校園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。



教育実践研究 (教育実習)

～大学院教育～

■ 福井大学教職大学院 学校拠点方式

小中学校の現場 (拠点校、連携校) を大学院の教室に

■ 三位一体教育改革

学部・大学院・附属学校園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化をしています。



- ・教職大学院を附属学校に置き、附属学校園を先端的教師教育研究の拠点に位置付け
- ・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築して、教師の資質向上
- ・附属学校に新たに教職大学院所属の「研究実践者教員」を配置



- ・附属学校で授業を展開
- ・授業プロセスを学生に公開し、理論化
- ・附属学校教員や他の大学教員と協働探究を展開
- ・組織改革を実行

HOT NEWS

国立大学法人初の「義務教育学校」新設

福井大学教育学部附属学園では、子どもの成長発達に即して、より包括的に教育活動を展開できる小学校から中学校まで一貫した「義務教育学校」を設置しました。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を、基礎的なものから一貫して施すことを目的としています。



福井大学教育学部
附属義務教育学校

信頼し得る医療人・研究者の育成 (医学部・医学系研究科)

■ 医学教育の国際標準化

平成28年度に世界医学教育連盟が定める「医学教育のための質的保証」に準拠したカリキュラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師の育成を促進しています。

<国際認証評価に向けた取組>

学生用電子カルテ・ポータルフォリオ・課題提出機能・教員用評価機能を一体化したシステム (Bed-side LMS) を整備し、有機的な臨床実習を実現するとともに、診療参加型実習の質と安全を保証します。

■ 革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■ 看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

- ・幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施しています。また、県内で唯一助産師を育成しています。
- ・大学院修士課程に、平成26年4月「災害看護専門看護師教育課程」、平成27年4月「がん看護専門看護師教育課程」を設置しました。



看護実習

HOT NEWS

未来の科学者を養成

福井大学は生命医科学分野をはじめとする理数分野への大学進学を目指す高校生や、研究者および医学者を目指す高校生を応援しています！

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する「グローバルサイエンスキャンパス（GSC※）」の採択校17大学のうち、本学は特に生命医科学分野を中心とした、“Fukui Medical High School (FMHS)”を開設し、プログラムを実施しています。県内外から69名の高校生が集い、科学的好奇心を刺激する講義実習を受講するインテンシブコースと、大学の研究室(ラボ)に配属され最長で1年半の高度な研究活動をするアドバンストコースに取り組んでいます。



成果発表会

※GSCとは…

大学が、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理数教育プログラムの開発・実施等を行うプログラムです。

夢を形にする技術者 GLOBAL IMAGINEERの育成

(工学部・工学研究科)

■創造力と実現力を育む創成教育

学生の自主性や創造性、知識・技能を総合して問題解決する実践的能力の育成を目的とし、学科・学年の枠を越えた学生グループで各自の専門分野の知識も活用して学際的・具体的問題に取り組んでいます。



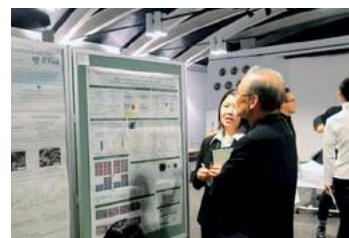
知能ロボットプロジェクト

■産業現場に即応する実践道場

業界の幅広い分野からの課題解決型の実践現場の提供とエキスパートの教育参加によって、広い視野をもち、自ら考え行動していく自律型産業人材の育成を目指します。

■繊維系大学連携による次世代繊維・ファイバー工学分野の研究および人材育成

大学院に「繊維・ファイバー工学分野」の専攻を有する信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学が教育研究資源を連携・融合し、各大学の強みを活かし、3大学で繊維の世界をリードする繊維系大学連携の構築を目指します。



3大学連携による繊維・ファイバー工学コース
国際会議での学生の発表風景

HOT NEWS

工学基礎教育支援センター

GLOBAL IMAGINEERの育成に向けて基礎教育の充実を目指す

工学基礎教育支援センターでは、各学科で開講されている数学や物理などの基礎的な科目の講義に対する支援を行っています。工学部全学科の協力のもと、各学科における専門科目を学ぶ上で必要となる基礎知識を身に付けるために欠かすことのできない基礎科目教育の改善、教育環境の変化への対応、新しい教育ツール・教育手法の開発などに取り組んでいます。



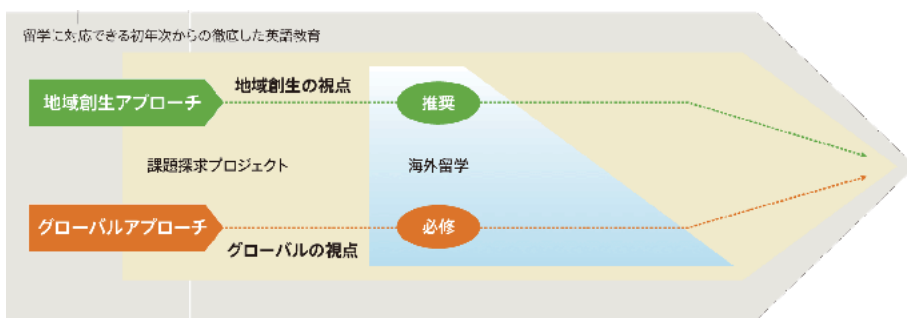
講義・実習の様子

<主な取組>

- 各学科で統一して使用する教科書や講義内容の基準となる標準シラバスの提案
- 達成度別クラスを編成して行われる学力に応じた講義
- 教員やティーチングアシスタントが常駐する数学学習支援室を設置し、学生の自主的な学習を支援

グローバル化する地域の発展に寄与できる人材の育成

(国際地域学部)



地域の創生を担い、
グローバル化する社会の発展に
寄与できる人材の育成

■ 世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。



授業風景

■ 医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対し、その解決に向け、自然科学系の基礎的な知識や方法の助けを借りて、複合的なアプローチを図ります。

■ 地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状や課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等の皆様へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。



福井銀行でのヒアリング

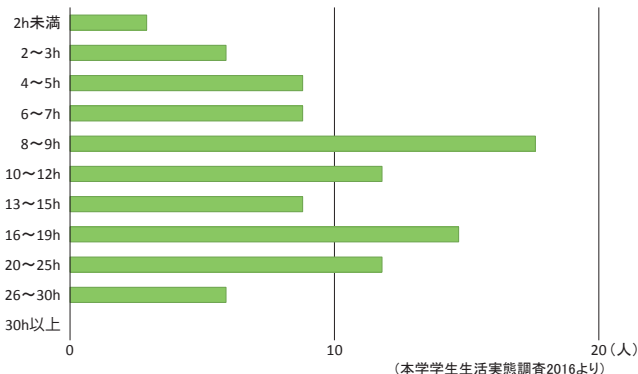
トピック

○ 授業以外の学修時間で米国並みをクリア

いま大学教育では、学生の授業時間以外の学修時間の確保・増大を図り、学生の主体的な学びと単位の実質化に取り組むことが課題となっています。本学でも第3期中期目標に、学生の平成27年度の授業以外の学修時間平均6.5時間を第3期中期目標期間中に1.5倍以上（10時間以上）にするという目標を掲げています。

国際地域学部の学生は、こうした目標を上回るとともに、平成29年度前期の独自調査では、2年次生の留学を必修としているグローバル・アプローチの学生（33名）の平均は16.6時間で、アメリカ並みの数字となっています。

大学の授業時間を除く1週間当たりの学修時間(国際地域学部)



国際社会に貢献できる人材の育成 (全学)

■グローバル・ハブを拠点とした世界につながる取組

文京キャンパスのグローバル・ハブには、ソファや雑誌、テレビを設置し、リラックスした雰囲気ですさまざまな交流や情報収集を行うことができます。松岡キャンパスではマルチラーニングスペース等を活用してイベントを実施しています。



グローバル・ハブ

トピック

- 外国人留学生との交流や、英語を実践する場の提供を目的にイベントを開催しています。
- 海外留学経験者・外国人留学生の学生スタッフが、海外留学や英語学習をサポートします。



イベントの様子

■世界の人々と学び、協働する海外留学

活発な国際交流および国際水準での教育・研究を推進し、地域の国際化および豊かな社会づくりに貢献できる人材の育成を目指し、充実した海外留学の機会を提供しています。

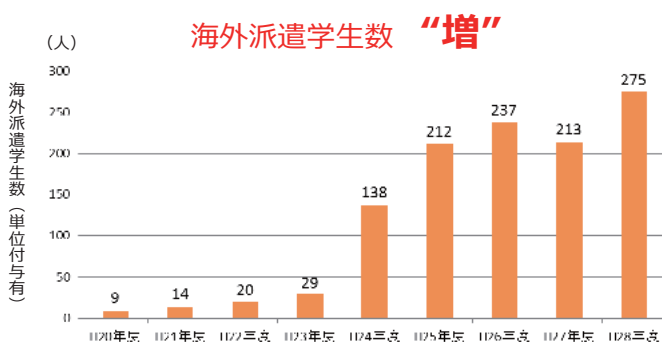
短期留学

本学と学術交流協定を締結している海外の教育機関等との間で、1週間～3か月程度の「短期海外研修プログラム」を実施しています。学生一人ひとりが留学の目的や関心、外国語や専門分野の学習段階、将来設計等に合わせて適切な時期に最適なプログラムを選択して参加できるよう、多様なプログラムをレベル・内容別の6タイプに分類、体系化して提供しています。

中・長期留学

主に3か月以上の比較的長い期間、海外に滞在することにより、語学力を集中的に向上させ、現地学生や世界各国からの留学生とともに専門分野の知識・技術を磨きます。本学の学術交流協定校に加え、アジア太平洋大学交流機構（UMAP）加盟大学への交換留学（半年～1年間）など、幅広い選択肢を用意しており、派遣先は今後も順次拡大していく予定です。

トピック



- 平成24年度以降、海外留学の促進に向けた短期海外研修プログラムの制度整備を進めたことにより、海外派遣学生数は大幅に伸びています。
- 特定の学部・学年に限らず、全学的に海外留学が定着してきています。
- 現在は海外派遣学生のうち短期留学者が大半を占めていますが、学術交流協定校の拡大に伴い、平成29年度以降は中・長期留学の派遣人数も増加していくことが見込まれています。

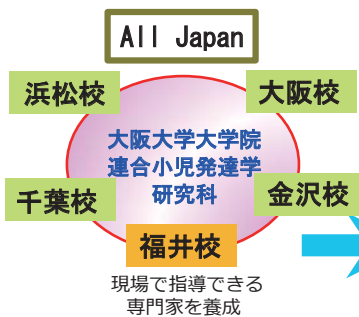
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むこころの問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学では、「子どものこころの発達研究センター」において、イメージング技術を駆使した脳機能の解明等に取り組むとともに、附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、子どもを取り巻く養育者に目を向けた取り組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による、学際的見地に立脚した大学院「連合小児発達学研究科」では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組んでいます。



教育

子どものこころと脳の発達に関する 高度専門家の育成

福井県内外の学校・病院・福祉施設等における発達障がい児及びその養育者支援のための高度専門家を育成。



研究

科研費細目別採択件数 「子ども学」ランキング 1位

子どものこころ・発達障がいの視線研究

視線計測検出装置（かおテレビ）により自閉スペクトラム症者の視線パターンを計測して唾液中オキシトシンの濃度との相関を調べ、自閉スペクトラム症者ではオキシトシン機能不全を示唆する所見がみられることを発見。



かおテレビ：子どもの視線を赤外線にて測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する



医療

福井県 「子どもの心の診療医養成研修事業」

県健康福祉部障害福祉課と協働で、一般診察に携わる福井県下の医師向け研修講座を実施。



HOT NEWS

寄附研究部門「児童青年期こころの専門医育成部門」の設置

小児期・児童青年期のこころの専門医およびコメディカル等の育成・確保のための研修プログラム並びに体制整備等の構築を行い、県内の児童青年期精神医療を推進します。

高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET/MR）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）

■ PET分子イメージングの包括的研究を推進

- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRを用いた診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETや機能的MRI（fMRI）を用いた脳機能研究

■ 画像医学研究を担う人材の育成

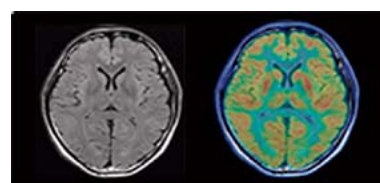
- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育

■ 医工連携による産学官共同研究

- ・パナソニック医工学共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践



世界有数の最新型PET/MR装置



PETとMRIの融合画像

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外／テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

■ 遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発

■ 国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開

（国内外10機関との学術交流協定、国内外8機関との共同研究覚書を締結）



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

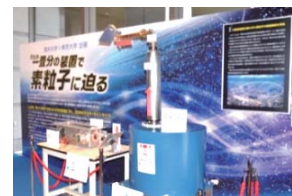


遠赤外技術に関する国際会議（H29年に福井大学で開催）

トピック

○ 世界で初めて成功した「ポジトロニウム」に関する研究成果を文部科学省のエントランスに展示

素粒子物理の実験には大型加速器が用いられることが通例ですが、本学と東京大学のコラボレーションにより“たたみ1畳分”の装置を開発しました。本装置によって、自然界で最も軽い原子「ポジトロニウム」の状態間のエネルギー差の直接測定に初めて成功しました。



展示の様子（H28.9.1～10.21）

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

■ 人材育成

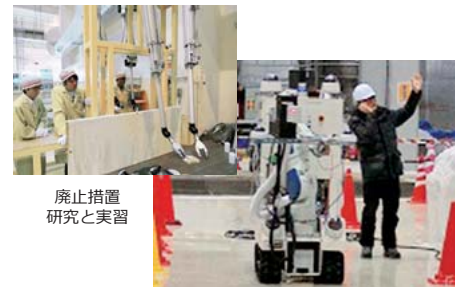
- ・ 原子力に関する学部基礎教育
- ・ 原子力・エネルギー安全工学専攻での大学院生の専門教育
- ・ 国内外からの研究者・研究員の受入れ、県内の原子力施設を活用した質の高い国際的人材育成



グローバル人材育成
(学生と外国人との討論)

■ 研究

- ・ 福井県嶺南地域の研究機関、民間企業等との共同・協力による、実炉を対象とした原子力の基礎・基盤研究
- ・ フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との活発な学術交流・国際的な原子力安全研究
- ・ 原子力の安全性向上、防災危機管理、廃止措置に関する研究



廃止措置
研究と実習

■ 連携・拠点化

- ・ 北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携
- ・ 原子力施設を核とした研究拠点の形成促進
- ・ 若狭湾エネルギー研究センターや各種ネットワークとの連携
- ・ 地域に開かれた研究所として、講演会、セミナー等を通じた地域貢献



関連機関との連携研修

トピック

○ 新たな教育・研究活動等への展開

- ・ 平成27年度文部科学省「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」に採択され、本学が中心となり、西日本の大学や研究機関の連携による「福島第一原子力発電所の燃料デブリ分析・廃炉技術に関わる研究・人材育成」を実施しています。



- ・ 平成28年度から新たに原子力規制人材育成を実施しています。

最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■ 県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

「医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。

■ 大学病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、365日24時間体制で実践しています。

★ 本学医学部附属病院総合診療部 林寛之教授が「平成29年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞いたしました。



全ての患者を受け入れ
“地域医療の砦”として迅速に対応

■ 急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する

「クラウド型救急医療連携システム」の開発

本システムは、福井県内の5消防本部12救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の5病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信が可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しました。「モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)」の「MCPCアワード」で最高賞の総務大臣賞を受賞しています。



二人一組のチームで看護ケアを行う

■ パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)と

「看護総合育成プログラム」の実現

- ・ 全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
- ・ 新人看護師に対して育成チームによる支援体制

トピック

○ 福井大学病院が得意な治療を解説した本を発刊

インターネットを中心に様々な医療情報が溢れる中、本院で行っている治療をわかりやすく解説、また、各診療部門の治療に関するサポートについても説明し、安心して治療に臨める情報を掲載しています。平成29年8月より院内ローソンおよび県内の書店で販売中です。



病院再整備第四弾

平成26年9月の新病棟運用開始に続き、29年9月から神経科精神科外来等の運用を開始し、外来部門の整備がほぼ完了しました。また、10月には売店やコーヒーショップなどのサービス施設がオープンする予定です。

平成30年度の再整備事業完了に向け、患者総合支援センターの整備や放射線部・ホスピタルストリート等の改修工事を進めています。



患者総合支援センター
完成イメージ

地域医療の担い手の育成

■福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・地域医療を志す医学生、看護学生、研修医、新人看護師の実技訓練
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



内視鏡外科手術用トレーニングボックスでの実技訓練

■寄附講座「認知症医学推進講座」の設置

内科学2（神経内科）分野及び精神医学分野との緊密な連携のもと、認知症全般を包括する臨床研究、基礎研究を実施。研究成果を地域医療、介護教育の現場に還元し、地域医療の人材を育成します。

<H28年実績>
毎月延べ約780名の医師・看護師・学生・コメディカルの方が利用
(うち学外からの利用者約160名)

■地域の医師は、地域が育て、地域が守る

高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。平成27年11月に高浜町和田診療所の医師で医学部地域プライマリケア講座の井階友貴講師が、医療、保健、ライフサイエンスの分野で活躍する35歳以下の期待の精鋭の活動を顕彰する第4回「明日の象徴」を受賞しました。



第4回「明日の象徴」を受賞

がん診療推進センター最新情報

平成19年1月より福井県における地域がん診療連携拠点病院に指定されています。地域におけるがん診療全般にわたる機能強化を目的に「がん診療推進センター」は設置されました。

- ・緩和ケアチームにより、病気による身体や心のつらさを軽減するためのチーム医療として、入院外来を問わず専門のスタッフが対応しています。
- ・治療しながら今の仕事が続けられるだろうかなど、多くの患者さんが直面する問題に対し、社会保険労務士・ハローワークと連携して治療と就労の両立を支援します。

トピック

- リンパ浮腫ケア外来の予約枠が増えました。
ニーズに対応するため、リンパ浮腫ケア外来の診療を週2回に。リンパ浮腫セラピスト資格を持った看護師の施術が受けられる県内唯一の専門外来。(毎週 火・木 13:00~17:00)
- やわらぎ日記(在宅緩和ケア地域連携パス)がスタートしました。
病院と在宅の連携をスムーズにするための地域連携パス。当院が普及を推進。北陸3県で使用しています。



リンパ浮腫ケアの様子

産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

■ 教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働！

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。



先端機器を利用したコカレティンガ

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進



最先端計測機器

イメージを「見える化」する試作！

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。



〈試作品の例〉

浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

「知」の創出を支援する専門人材！

「URA（リサーチアドミニストレーター）」

研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを行い、大学における研究の卓越性を探究します。平成29年2月からURA機能を産学官連携本部に統合し、研究成果の社会還元推進を強化しました。



URA主催によるワークショップ

トピック

挑戦！「稼ぐ力」を大学に！

「ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出」

※地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省 平成29～33年度）

光の制御技術をコアとして、光学エンジンの高効率合波特性と小型化の両立を実現し、ワンチップ化した超小型光学エンジン事業と革新的オプト産業の創出を図ります。さらに福井地域の有する多様なリソースの活用と、産学官金の連携により、超小型光学エンジンの用途展開、事業化を推進します。



COCからCOC+へ ～その中で目指す地域創生～

■ 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に採択

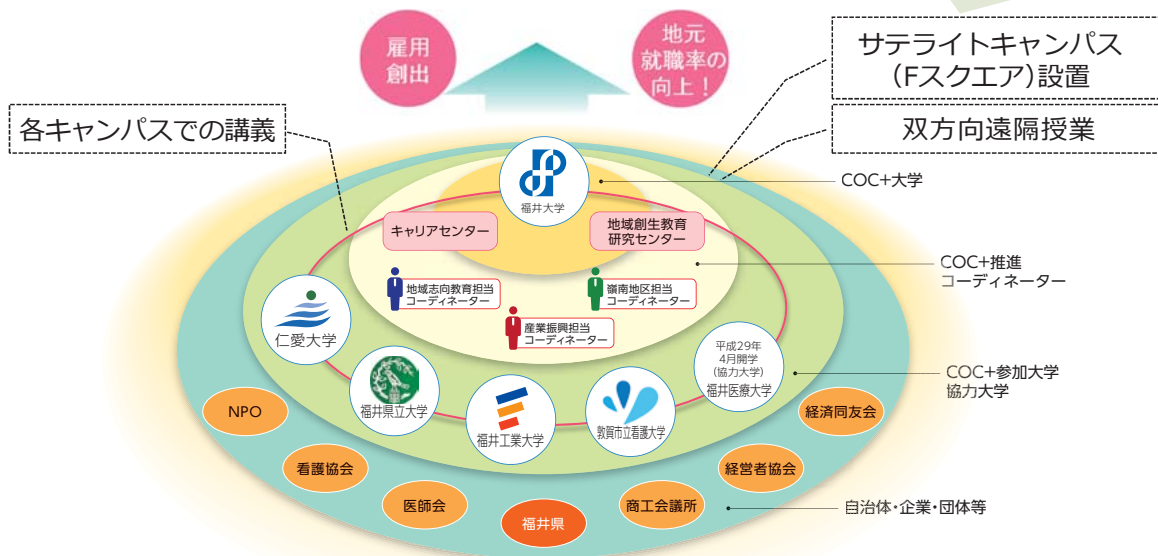
平成25年度から、県内自治体の地域課題である重点5分野に戦略的に取り組むとともに、地域での実践力と創造力を有する学生を育成するため、教育カリキュラム等の改革を行い、全学を挙げて「福井の知の拠点づくり」を目指してきました（COC事業）。

平成27年度からは、COC事業に加え、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の責任大学として、県内の4年制大学（福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学）と、福井県ならびに地域の産業界等と一体になって、地域志向の充実、産業の創出、地域課題の解決など様々な取組みにより、地域の持続的発展に貢献するとともに、学生の地元定着率の向上を目指しています。

<到達目標>

学卒者の地元就職率の10%向上、雇用創出85名

サテライトキャンパスにおいて、平成28年度に共同開講した科目は30科目、受講者数は延べ1,196名（内単位互換者数482名）となりました。受講学生に対するアンケートからも高い評価を得ています。平成29年度は35科目の共同開講を予定しています。



国際貢献

■ 国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

トピック

平成28年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官など、アフリカ4カ国から7名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援しました。



教職大学院での研修の様子

■ JICA草の根技術協力事業

バングラデシュ・パイガサ地域での「パイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」がJICA「草の根技術協力事業」に採択され、H28年度より本格実施しています。

本学、JICA、現地NGOの協働で、「住民が太陽熱淡水化装置を製作し管理する技術支援」と「保健衛生教育」を、医工連携で実施し、水・保健環境の改善モデルの確立を目指します。



就職率 10 連覇

教育地域科学部

医学部

工学部

97.0%

94.8%

97.6%

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2017」において、本学は複数学部を有する国立大学において10年連続1位となりました。

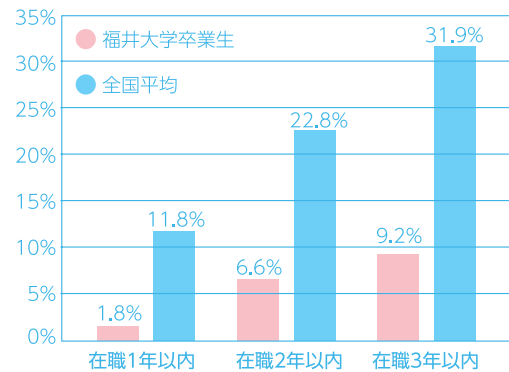
低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.2%）は全国平均（31.9%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

実就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2017	福井大	97.4	九州工大	95.5	電気通信大	94.8
2016	福井大	96.8	九州工大	95.8	電気通信大	95.3
2015	福井大	96.1	名古屋工大	94.1	群馬大	94.0
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	長岡技科大	95.9	九州工大	95.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋技科大	91.9

※実就職率＝就職者数÷（卒業者数－進学者数）



参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート2016（平成27年11月実施）及び「新規卒就職者の在職期間別離職率の推移（厚生労働省HP）」

福井大学が就職に強い3つの理由

1. 積極的なキャリア形成支援

- ・ 地域と密着した人間力育成事業の実施
- ・ 日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
- ・ 夢をかたちにする技術者育成の徹底

2. 学生を支える充実した就職支援体制

- ・ 就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・ 本学独自のキャリアサポートシステムの運用
- ・ 就職活動の拠点サテライトキャンパスの設置

3. きめ細かな就職支援活動の実施

- ・ 充実した就職ガイダンスの開講
OB・OGとの懇談会、学内合同・個別企業説明会の開催 等



キャリアカウンセラーによる就職相談



毎週開講される就職ガイダンス



学内合同企業説明会

カケるプロジェクト

ライブチャットを活用したイベントや、社会人と学生が気軽に交流しあえる場など、低学年時から遊びの要素から就職活動に必要なスキルを習得できるような企画を提供。

- ・ 学外で行う地元密着交流企画
- ・ 学内で行う双方向トークイベント



KAKERU PROJECT

本学の教育力は高評価を得ています

THE世界大学ランキング日本版2017で

- ・総合ランキング**42**位
- ・教育リソース分野ランキング**30**位
- ・教員一人あたりの競争的資金の獲得数ランキング**27**位

(※データ提出のあった435校中の順位)

世界三大ランキングのひとつとされる、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）を運営するTES Global社がつくる「THE世界大学ランキング」の日本版が平成29年3月に初めて発表されました。日本版は教育力に焦点を当てたランキングとなっています。本ランキングは、世界の大学進学・留学希望者の大学選びに活用されています。

THE世界大学ランキング日本版HP
<https://japanuniversityrankings.jp/>

「福井大学基金」 ご支援・ご協力のお願い

学生の修学支援を目的として、福井大学基金を設立し、募金活動を行っております。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

『古本募金』

11月からスタートします！



古本募金は、皆様から古本等をご提供いただき、その査定換金額を福井大学基金に寄附する取組です。読み終わった本等で福井大学にご支援をお願いいたします。

※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。
HP <http://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>

研究者検索をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。是非ご活用ください。

HP <http://t-profile.ad.u-fukui.ac.jp/search/index.html?pn=p1>

灯りで心に感動を ～キャンパスイルミネーション～



学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取り組みが行われています。

- ★開催時期
【松岡キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬
【文京キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬
- ★詳細はHPでご確認ください
<http://www.u-fukui.ac.jp/illumination/>

●大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せください。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1 TEL:0776-27-9733 FAX:0776-27-8518

Mail:koho@ad.u-fukui.ac.jp

HP:<http://www.u-fukui.ac.jp/>

[福井大学](http://www.u-fukui.ac.jp/)



発行 福井大学総合戦略部門経営戦略課
発行日 平成29年10月1日